

問1 受精卵が分裂を始めた初期の胚から取り出され、あらゆる組織や臓器に分化する能力を持つ細胞のこと。生命の萌芽を滅ぼすという倫理的問題がある一方、日本においては、海外から輸入したものをを用いて再生医学の基礎研究を行うことなどは、適切な指針のもとで認められている。この細胞の名称を何というか。（2006年 全国公立入試 類似）

1. ヒト胚性生殖細胞（ヒトEG細胞） 2. ヒト人工多能性幹細胞（ヒトiPS細胞） 3. ヒト胚性幹細胞（ヒトES細胞） 4. ヒト体性幹細胞（ヒト組織幹細胞）

問2 青年期における欲求の対立のうち、「大学に進学して専門的な勉強をしたいが、受験勉強の苦労や不合格になるリスクは避けたい」というように、同一の対象に対して、望ましい側面と望ましくない側面が同時に存在するために生じる心理的な板挟みの状態を何というか。（2017年 全国公立入試 類似）

1. 二重接近－回避型の葛藤 2. 回避－回避型の葛藤 3. 接近－回避型の葛藤 4. 接近－接近型の葛藤

問3 人生を8つの発達段階に区分し、それぞれの段階における心理社会的危機や発達課題を整理した。例えば、青年期における「アイデンティティ（自己同一性）の確立」や、成人中期における「世代継承性（生殖性）」、老年期における「自己統合」などを提唱した、アメリカの心理学者は誰か。（2009年 全国公立入試 類似）

1. ロジャーズ 2. オルポート 3. エリクソン 4. キャッテル

問4 ハンセン病療養所での医療活動に従事する傍ら、人間の精神的営みを探究し、他者や社会から必要とされる自覚がもたらす生の「張り合い」や、自己の存在意義と生きがいの関係を深く考察した、著書『生きがいについて』で知られる日本の精神科医・思想家は誰か。（2006年 全国公立入試 類似）

1. 中村雄二郎 2. 神谷美恵子 3. 小此木啓吾 4. 式場隆三郎

問5 人間の欲求は、生理的欲求や安全の欲求といった低次の欲求から、他者との関わりを求める欲求、そして最終的には自己の可能性を最大限に発揮しようとする自己実現の欲求へと、階層的に発展していくという理論を提唱したアメリカの心理学者は誰か。（2025年 全国公立入試 類似）

1. マズロー 2. アドラー 3. レヴィン 4.フロイト

問6 アテナイの知者と称される人々は、自らが実際には知らないことについても知っていると思ひ込み、傲慢に陥っていた。これに対して、自分には根本的な無知や無力さの自覚があるという点において、彼らよりもわずかに優れていると考えられた。このように、自己の無知を自覚し、真の知を求めて他者と真摯に対話する出発点となる、古代ギリシア哲学における根本的な態度を何と呼ぶか。（2005年 全国公立入試 類似）

1. 無知の知 2. 万物の尺度 3. 洞窟の比喻 4. 魂の配慮

問7 青年期は、他者との関係性の中で自己の内面を客観的に見つめ直し、様々な葛藤を抱えながら自己探求を行う時期である。この時期に、社会的な責任や義務が猶予され、自己形成に専念できる期間（モラトリアム）が与えられているとし、青年期の発達課題として自己同一性の確立を提唱したアメリカの心理学者は誰か。（2009年 全国公立入試 類似）

1. オルポート 2. レヴィン 3. ハヴィガースト 4. エリクソン

問8 アメリカの心理学者マズローが提唱した欲求階層説において、他者から自己の価値を認められ、高く評価されたいと願うとともに、自分自身に自信をもちたいと望む欲求を何というか。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 安全の欲求 2. 承認の欲求 3. 社会的欲求 4. 自己実現の欲求

問9 青年期において、自分が他ならぬ自分自身であり、過去から未来へと時間的に一貫した存在であるという確信を指す概念は何か。アメリカの心理学者エリクソンによって提唱され、他者との関わりや社会的役割の模索、葛藤を通じて形成されるとされる。（2011年 全国公立入試 類似）

1. 防衛機制 2. 自己実現 3. 自我同一性 4. 発達課題

答え合わせ・解説 No.8

問1	答え 3 ヒト胚性幹細胞（ヒトES細胞）	受精卵を壊して作成されるため倫理的な議論があるが、日本では適切な指針やルールの下で、海外から輸入したものを再生医学の基礎研究に用いることなどが認められている。この細胞は、あらゆる組織や臓器に分化する万能性を持つ。
問2	答え 3 接近－回避型の葛藤	同一の対象や状況に対して、近づきたいという欲求（接近）と、避けたいという欲求（回避）が同時に存在し、板挟みになる状態をレヴィンは接近－回避型の葛藤と分類した。提示された例では、大学進学という魅力的な目標に近づきたい欲求と、受験の苦痛や不合格という不利益を避けたい欲求が衝突しているため、この類型に該当する。
問3	答え 3 エリクソン	人生を8つの発達段階に区分し、各段階に特有の発達課題や心理社会的危機を設定した心理学者はエリクソンである。彼は、青年期の発達課題をアイデンティティ（自己同一性）の確立とし、成人前期には他者との親密性、成人中期には次世代を育成する世代継承性、老年期には自らの人生を肯定的に受け入れる自己統合が必要であると説いた。
問4	答え 2 神谷美恵子	ハンセン病療養所である長島愛生園での精神科医としての勤務経験などを通じて、人間の生きがいについて深く思索した。著書『生きがいについて』では、自分の存在が他者や社会にとって必要とされているという自覚が、人間に精神的な「張り合い」をもたらし、生きる力を与えるというメカニズムを明らかにした。
問5	答え 1 マズロー	人間の欲求を5つの階層に分類し、低次の欲求が満たされることで高次の欲求が現れるとする「欲求階層説（自己実現理論）」を唱えたのはマズローである。彼は、最終的な最高次の欲求を「自己実現の欲求」と位置づけ、人間が自己の潜在的な可能性を追求する存在であることを強調した。
問6	答え 1 無知の知	ソクラテスは、神託「ソクラテス以上の知者はいない」の真意を確かめるため、知者と評判の人々と対話した。その結果、彼らは自分が知らないことを知っていると思込んでいる（傲慢である）のに対し、自分は「知らないということを自覚している」という点で優れていると確信した。この自覚を「無知の知」と呼び、これが真の知を求めて他者と対話する出発点となる。
問7	答え 4 エリクソン	青年期における自己探求や葛藤のプロセスを分析し、社会的な義務や責任が猶予される期間を「モラトリアム」と名付けたのはエリクソンである。彼はまた、青年期の発達課題として自己同一性（アイデンティティ）の確立を提唱し、現代の青年心理学に大きな影響を与えた。
問8	答え 2 承認の欲求	マズローは人間の欲求を5つの階層に分類しました。その第4段階に位置するのが、他者からの評価や自尊心の充足を求める欲求です。これが満たされることで、人は自分に自信をもつことができるようになります。なお、この欲求は「尊重の欲求」とも呼ばれます。
問9	答え 3 自我同一性	アメリカの心理学者エリクソンが提唱した概念であり、英語ではアイデンティティと呼ばれる。自分が他ならぬ自分自身であるという一貫した確信や、社会的な自己の確立を意味し、青年期における発達課題の核心とされる。